

議会運営委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和元年10月28日（月）～令和元年10月29日（火）

2. 参加者

委員長	青木 満
副委員長	佐藤 久芳
委員	中尾 大助
委員	澁木 茂
委員	堀越 幸広
委員	都丸 裕史
委員	山口 将
議長	須田 敏彦
事務局	中繁 尚之
事務局	今野 未波

3. 視察地

埼玉県戸田市
東京都あきる野市
神奈川県秦野市
東京都町田市

4. 交通機関 貸切バス

5. 視察結果 別紙のとおり

◎視 察 地:埼玉県戸田市

◎視察内容:委員会傍聴及び災害時の議会活動について

【市の概要】

面 積: 18.19km²

人 口: 140,291人(令和元年9月1日現在)

人口密度: 7,713人/km²

埼玉県の南東部に位置し、水と緑の空間に囲まれた潤いのあるまち。江戸時代には中山道の「戸田の渡し」が設置され、交通の要衝として栄えた。現在も子育て世代を中心に人口が増え続けており、若い世代が多く活気溢れるまちである。

市内には、文化・スポーツ施設や歴史を感じさせる寺社、親子で遊べる公園など、市民が誇ることのできる財産が豊富にある。中でも1964年の東京オリンピックの漕艇競技の会場となった国内唯一の静水コース「戸田ボートコース」では、1年を通して若者が集い、力強くボートを漕ぐ姿を見ることができる。また、荒川沿岸に広がる彩湖・道満グリーンパークは、スポーツ施設やバーベキュー広場などを備えた自然豊かなレクリエーションゾーンで、休日には多くの人を訪れ、大変賑わっている。

【背 景】

◆委員会傍聴について

議会改革を推進するため、平成15年2月に常設型の議会改革特別委員会を設置し、その所管事項の一つとして「市民に開かれた議会のあり方について」が掲げられ、委員会傍聴の拡大について協議を始めた。

◆災害時の議会活動について

地震等の災害が発生したときに、市議会が災害対策本部と連携を図り、災害対策活動を支援するとともに議員の迅速かつ適切な対応・活動の指針を定め、被害の拡大防止及び災害の復旧・復興に寄与し、市民の代表として混乱なく役割を果たすための行動マニュアルが必要であった。

【事業内容】

◆委員会傍聴について

定例会中の常任委員会（6委員会）の公開を皮切りに段階的に対象を拡大。

時期	対象	備考
平成15年12月	定例会中の常任委員会	
平成18年 6月	定例会中の特別委員会	議会改革を除く
平成18年 9月	閉会中、臨時会	
平成24年 8月	全委員会、全員協議会	

(参考)・平成18年6月 議会ライブ中継の開始 ・平成21年12月 議会録画配信の開始

・準備段階

- ① 戸田市議会委員会傍聴規程等の制定 ※委員長の許可制から原則公開へ
 - ・戸田市議会委員会条例の一部改正及び委員会傍聴規程の新規制定
- ② 備品等の購入（傍聴用パイプ椅子、傍聴章など）
- ③ 「傍聴のしおり」の作成

・受付手順

- ① 傍聴受付開始 ※開会 1 時間前より
- ② 第一次受付終了 ※開始 3 0 分前
- ③ 傍聴券、傍聴章の交付
- ④ 注意事項等の説明
- ⑤ 委員長から各委員への周知後、傍聴者入室
- ⑥ 終了後、傍聴券、傍聴章等の返還

・その他

- ① 配布資料の回収
- ② 児童・乳幼児の傍聴は席を使用する場合は定員に含め、保護者が抱っこするなど席の使用がない場合は定員に含めない
- ③ ベビーカーで入室する場合は定員に含める

・傍聴者の推移

傍聴者数は 3 0 人台から 4 0 人台で推移している。また、傍聴者のうち議会モニター数が年々減少している

委員会	平成 2 6 年	平成 2 7 年	平成 2 8 年	平成 2 9 年	平成 3 0 年
2 月臨時会	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—
3 月定例会	6 (6)	6 (2)	1 3 (7)	2 1 (5)	5 (2)
6 月定例会	5 (2)	7 (1)	9 (1)	2 (1)	1 (0)
9 月定例会	1 0 (1)	2 0 (6)	4 (0)	4 (0)	5 (0)
12 月定例会	1 (0)	2 (1)	7 (1)	1 0 (0)	3 (0)
閉会中	8 (5)	1 2 (5)	1 4 (3)	4 (1)	2 1 (5)
合計	3 0 (1 4)	4 7 (1 5)	4 7 (1 2)	4 1 (7)	3 5 (7)

※ () 内は傍聴者のうち、議会モニターの数

・課題

- ・開かれた議会として平成 2 4 年 8 月から全委員会及び全員協議会も公開としたが、なかなか傍聴者数が伸びない
- ・委員会活動の活性化として各常任委員会は年間活動テーマを設置し毎月 1 回開催しながら成果として提言書等を提出しているので、その過程をどのように見てもらうかが難しい
- ・委員会もインターネット公開する場合、ざっくばらんな議論をそのまま公開してよいのか、編集する場合は暫時休憩も多く編集作業でかなりの負担がかかる

◆災害時の議会活動について

「災害発生時の対応要領」及び「地震災害等発生時の対応について」の制定

・災害対策支援本部の体制

- ① 本部長→議長 副本部長→副議長
- ② 本部員→全議員
- ③ 専従従事者→議会事務局職員 ※議会事務局長は災害対策本部と情報連携

・災害発生時の議員・議会の役割

議員：本部長、副本部長、本部員として支援本部を組織、設置する

- ① 本部長→支援本部を総括する
- ② 副本部長→本部長を補佐し本部長に事故があるときは職務を代理する
- ③ 本部員→支援本部との連絡体制を確立するとともに支援本部、市民と情報収集・情報提供に当たる。また、各地域における災害時対応に協力する

議会：本部長、副本部長、議会事務局職員で支援本部の事務を執り行う

- ① 支援本部→本部員の安否確認を行うとともに災害発生時において被害の拡大防止及び災害の復旧・復興に向け、議員が迅速かつ適切に対応できるよう活動する

・災害発生時の対応

- ① 支援本部の設置
- ② 本部員の対応
- ③ 情報収集・伝達
- ④ 議会事務局の対応

※震度 5 弱以上の地震発生時は市災害対策本部設置の連絡を受け、支援本部設置の是非を決定する

※防災気象情報の発表などにより風水害発生時は支援本部の設置に備え、避難準備情報の発表や避難勧告の発令時に住民避難の支援をする

・事前・実際の取り組み

- ① 災害対策支援本部設置訓練の実施
- ② 災害対策支援本部の設置及び対応
- ③ 議場における避難訓練の実施
- ④ 防災ゲームによる防災対応訓練の実施

【まとめ】

◆委員会傍聴について

- ・現状、本町の一般傍聴（本町議会議員含まず）は事実上できない。

キャパシティや委員会の開催時間などにより委員会傍聴に足を運ぶ方は大変少ないと思われるが、各委員会は住民により身近な案件を活発に議論している場であるため、一般傍聴が可能な環境整備は早急に構築すべきであるが委員会室の拡張や傍聴者席の設置など、新たに大きな経費は発生させず、今ある設備、備品の中での対応が望ましい。

『開かれた議会』を目指す本町議会としては、早急な検討項目として、委員会条例の見

直し、改訂が必要である。

◆災害時の議会活動について

- ・現状、災害発生時は地域防災計画に基づき執行部が与えられた役割を果たしているが防災計画上、特別な役割を有しない議員は一般町民との位置づけとされるが、町民及び議員本人も含め、理解されておらず、災害時の混乱の中で更なる混乱を生じさせる恐れがある。そういったことから災害時の議員の情報伝達方法や行動について定めた災害時の議会行動マニュアルは早急に作成が必要である。

◎視 察 地:東京都あきる野市

◎視察内容:広報改革からの議会改革について

【市の概要】

面 積: 73.47km²

人 口: 80,702人(令和元年9月1日現在)

人口密度: 1,098人/km²

都心から40～50km圏に位置し秋川と平井川の2つの川を軸として比較的緩やかな秋川丘陵、草花丘陵に囲まれる平坦部と奥多摩の山々に連なる山間部から形成されている。

川でバーベキューや山でハイキングなど季節に合わせて景色を変える山々を有し秋川溪谷が美しい自然を楽しませてくれる、心休まるふるさと。採れたてを味わえる数々の野菜や都内唯一のブランド牛「秋川牛」をはじめ溪流のヤマメ、味の濃い地鶏、おやきなど特産品も豊富である。

【背 景】

多くの市民の方に議会を知ってもらうために議会改革の促進が必要となっているが、まずは議会からの情報発信やコミュニケーションの活性化ツールである広報紙のリニューアルから始めた。

【事業内容】

1. リニューアルの内容→大切にしたのは『多くの市民に手に取ってもらう工夫』

他自治体の広報紙を並べてどれが手に取って見たいのかを来庁者にアンケート調査を行い、見やすい、読みやすい紙面のポイントとして「詰め過ぎないこと」とし、ピックアップ方式に変更した。また、ホワイトスペース(余白)をしっかりと取ることや発行都度、ターゲットを変える取り組みを行っている。

★世代(縦軸)としてのターゲット(座談会)

×

★地域(横軸)としてのターゲット(小学校リレー)

(参考)

- ・座談会の開催・・・若手職人、引っ越してきた人、高校正、消防団、旅館業者、子育てパパ、姉妹都市留学生、市内に住む外国人、農業者、新成人、若手保育士、スポーツ指導者 など。
- ・小学校リレー・・・市立小学校の6年生が将来の夢を語るコーナー

2. ネーミングについて

生活に直結する議会の活動を知る時間にしてもらいたいとの思いを込めて・・・

シギカイ+時間=シギカイの時間 → ギカイの時間

また、フォントが持つ特徴も考慮している。

3. 編集作業の割り振り

	原稿	写真	備考
表紙	—	事務局	
座談会	事務局	事務局	
議案審議	事務局	事務局	
討論	議員	事務局	
一般質問	議員	議員	
一般質問答弁	編集委員	—	
Topics	事務局	事務局	
活動レポート	事務局	事務局	
今昔写真館	事務局	事務局	現在は掲載なし
あなたの未来	編集委員	事務局	
編集後記	編集委員	—	編集委員で持ち回り
その他	事務局	事務局	

4. 市民の評価

- ・リニューアル後の効果測定
- ・駅頭配布
- ・外部からの評価
- ・市民アンケート調査の実施

【まとめ】

- ・本町の議会広報誌も大胆なリニューアルの時期に来ていると思う。

あきる野市では表紙デザインのアンケート調査などもしっかり行い、市民に手にもってもらうことをテーマに作成し、詰め過ぎないことやピックアップ方式、いわゆる、住民に関心・関係の高い項目を抜き出す方法も取り入れ作成している。

本町の議会広報誌もマーケティング調査を行い、今まで以上に町民に議会活動を知っていただける広報紙を作り上げていくべきである。そういった活動が文章構成力など議員のスキルアップにも繋がり議会改革の一端となると考える。

◎視 察 地:神奈川県秦野市

◎視察内容:議会 ICT 化について

【市の概要】

面 積：103.76km²

人 口：165,067人（令和元年9月1日現在）

人口密度：1,591人/km²

神奈川県央の西部に位置し秦野盆地は東・北・西の三方を丹沢山塊の大山、三ノ塔、塔ノ岳、鍋割山などの谷の深い壮年期の山々に囲まれ、南を洪積世末に隆起したなだらかな渋沢丘陵に遮られてできた盆地である。市内を流れる河川の多くは丹沢山塊の稜線の合間から発している。豊かな自然に恵まれ、様々なハイキングコースがあり、また、秦野市北部には神奈川の屋根といわれる丹沢表屋根があり、四季折々の姿を楽しみに一年を通じて登山客が訪れる。さらに露天風呂と内湯でそれぞれ異なる源泉を楽しめる公営の日帰り温泉があり、いずれの源泉もカルシウムを多く含んだ良質な出湯で身体が大変温まる成分の濃い温泉である。かつて日本三大銘葉と讃えられるたばこの山地であり、たばことともに秦野の発展があったといっても過言ではない。そのような先人たちのたばこに注いだ情熱を忘れず、後世へ伝えるために「たばこ祭」が開催されている。また、毎年4月に開催される「秦野丹沢まつり」は1年間の登山者の安全を祈願し、表丹沢の美しい山並みを背景に山伏の演出による山開き式が行われる。

【背 景】

議員間や議員と執行部間の情報を共有し議会運営の効率化や市民に対しての情報発信力の向上、議会活動の利便性向上を図り政策立案能力や発信能力の強化、議会事務の効率化を図るためタブレット端末導入を進めた。

【事業内容】

- ・平成27年11月の代表者会議にて平成28年度当初予算にタブレット端末の導入などの経費を計上することを決定
- ・平成28年3月の本会議にて一般会計予算が成立
 - ※タブレット端末・会議システム（研修含む）：1,805千円
 - スクリーン・プロジェクター等周辺機器：1,674千円
- ・平成28年4月の代表者会議にてタブレット端末の使用基準を作成するための協議の場として ICT 専門部会を設置
- ・平成28年5月の第1回 ICT 専門部会より使用基準の協議をスタートした

◆タブレット導入費用

- ・現契約期間：令和元年9月1日～令和3年8月31日まで
- ・現契約金額：月額192,650円（税込）2年間合計4,623,600円（税込）

※60台（議会30台、試行部30台）を一括契約 1台当たり月額3,211円（税込）

◆ペーパーレス会議システム導入費用

- ・現契約期間：令和元年9月1日～令和3年8月31日まで
- ・現契約金額：月額39,258円（税込）2年間合計942,192円（税込）

※60台（議会30台、試行部30台）を一括契約 1台当たり月額654円

◆大型スクリーン購入設置費用

- ・購入金額：692,366円（税込）

◆プロジェクター及びレンズ購入費用

- ・購入金額：480,600円（税込）

◆一般質問での活用事例

定例会	通告者数	タブレット使用者数
H28年 6月	18	3
H28年 9月	15	10
H28年12月	17	9
H29年 3月	12	5
H29年 6月	18	7
H29年 9月	14	6
H29年12月	17	10
H30年 3月	12	5
H30年 6月	18	11
H30年 9月	17	6
H30年12月	19	12
H31年 3月	10	5
R元年 6月	18	9
R元年 9月	19	10
合計	224	108

※平成29年第1回定例会より執行部においてもタブレットを使用した答弁を認め、4回の活用実績がある

※タブレット操作勉強会を必要に応じて開催し学ぶ機会の確保にも努めている

◆導入効果

- ・グラフや写真を用いることにより論点が明確になり、より活発な議論が展開されている
- ・執行部からの資料など最新の情報がシステム内に格納されているため情報共有化が図られ効率化につながっている
- ・緊急の情報提供などをメールでも行うことができ外出先でもすぐに確認することが可能となった

- ・タブレットのカメラで撮影した現場写真を送付できるため、それを基に密な打ち合わせが迅速に行えるようになった

【まとめ】

- ・秦野市ではタブレット端末を導入したことにより様々な導入効果が出ている。
本町議会においても ICT 化はスピードを上げて積極的に取り組むべき事項である。しかしながら、まだまだ IT 弱者もあり、早急なタブレット導入は時期尚早である。したがって、IT 弱者や町の財政状況も鑑み、現時点でできる最善の ICT 化を推進して行くことが必要である。

◎視 察 地:東京都町田市

◎視察内容:議会改革の取り組みについて

【市の概要】

面 積：71.55km²

人 口：429,168人（令和元年8月1日現在）

人口密度：5,998人/km²

東京都心から快速急行で約30分、多摩丘陵の西部から中央部を占める位置にあり、神奈川県に半島のように突き出ている形状が特徴である。アクセスの便利さが魅力で小田急線、東急田園都市線、JR横浜線、京王相模原線の乗り入れがあり東京と神奈川を結ぶ拠点ともなっている。

昨今観光都市としての人気も高まっている。「古き良き自然と歴史に」「新しい文化」が融合した街の様相は訪れる者を飽きさせない。市の顔である町田駅周辺には、近代的な大型店舗やビルが建ち並び大変な賑わいを見せているが、その中には何十年も前から続いている老舗も見られ商業都市としての新旧を感じることができる。また市外に目を向けると北部の小山田地域、東部の三輪地域には多摩丘陵の四季折々の豊かな自然、昔ながらの里山風景と古道などがあり自然遺産・文化遺産を巡る楽しみもある。一方で多くの有名私大を有する学園都市としての側面もあり美術館など文化施設が充実しているのも特徴である。

【背 景】

町田市議会では市民意識調査より市議会への関心が年々、減少している現状がわかった。その状況に歯止めをかけるため議会の活性化に向け議会改革を始め、その一環でペーパーレス化、職員の労務費削減、情報速達性、情報の共有化を目的としタブレットの導入を進めた

【事業内容】

◆タブレット端末に関して

- ・メーカー：ソフトバンク株式会社

- ・機種：iPad Air2（9.7インチ）

- ・導入台数41台

- ・通信費年間経費（MDM含む）：約250万円

（内訳）レンタル費用：4,000円×41台×12か月＝約200万円

MDM費用：約500円×41台×12か月＝246,000円

Wi-Fi光回線：約7,500円×2回線×12か月＝約180,000円

- ・キッティング委託、無線AP等の一括経費

（内訳）キッティング委託：2,500円×41台×消費税＝110,700円

議場・委員会室無線AP：33,830円×6台×消費税＝219,219円

会派室用無線AP：23,600円×5台×消費税＝127,440円

◆その他の議会改革項目

- ・傍聴規則の傍聴人受付簿の廃止
- ・全員協議会、議案説明会の公開
- ・手話通訳者の派遣
- ・議員定数の削減
- ・会議録・委員会記録の検索
- ・行政視察において全委員が報告書を作成
- ・欠席の届出を具体的に明記
- ・一般質問時間の変更
- ・インターネットによる議会中継開始
- ・請願者の意見陳述を開始
- ・各常任委員会により市民団体等との懇談会を活発化
- ・本会議場、委員会室にパソコンの持ち込みを許可
- ・政務活動費に関する領収書をホームページで公開 などなど

【まとめ】

・町田市では様々な議会改革を行っており、議会において PDCA サイクルがしっかりと回されていると感じた。今回の視察では ICT 化がメインとなったが、本会議場や委員会室にパソコンなどの電子機器の持ち込みなどもいち早く可能にしている。その他にも傍聴人受付簿の廃止や全員協議会の公開、請願者の意見陳述なども行っている。本町議会においても様々な改革は必要であるが ICT 化の推進というところでは、J アラートや緊急地震速報など緊急時の対応が遅れることや、議論をしている中で内容を確認したい際にインターネットなどで調べることが出来ず非効率になっていることから本会議場、委員会室への電子機器の持ち込みについて早急に議論を始めるべきである。

その他、様々な点で本町議会でも改革するべきと思われる項目があった。本町議会が目指す『開かれた議会』に向けてスピードを上げて議会改革を進める必要がある。